



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 株式会社 キムラタン

上場取引所 東

コード番号 8107 URL <http://www.kimuratan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役

(氏名) 浅川 岳彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 木村 裕輔

TEL 078-332-8288

四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	3,480	△3.6	56	△35.6	45	△28.7	40	△31.3
25年3月期第3四半期	3,612	1.1	88	78.1	63	137.1	59	217.0

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 57百万円 (△2.8%) 25年3月期第3四半期 59百万円 (217.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	0.05	—
25年3月期第3四半期	0.08	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	2,323	1,166	50.2	1.48
25年3月期	2,466	1,108	44.9	1.40

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 1,166百万円 25年3月期 1,108百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	△5.7	20	△78.4	10	△83.8	5	△86.4	0.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	790,093,101 株	25年3月期	790,093,101 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	83,109 株	25年3月期	83,009 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	790,010,042 株	25年3月期3Q	790,010,518 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる情報及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページの「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
26年3月期第3四半期	3,480	56	45	40
25年3月期第3四半期	3,612	88	63	59
増減率	△3.6	△35.6	△28.7	△31.3

当第3四半期（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）におけるわが国経済は、金融緩和の継続や政府の経済政策を背景に、輸出関連企業を中心とした業績改善など、国内景気には回復の動きが見られました。

個人消費につきましては、消費増税前の駆け込み需要の高まりにより、住宅や自動車など高額商品に動きが見られましたが、輸入価格の上昇による生活必需品の値上げや所得の伸び悩みを背景として、日用品全般に対する購買行動は一層慎重なものとなっております。さらに天候不順の影響も加わり、アパレル業界では、一部に好調な動きが見られたものの、全般的には非常に厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、円安に伴うコスト上昇に対処し、収益力の維持を目指して、生産背景の再編を急速に実施し、秋物以降の生産について、海外メーカーとの直接貿易を大幅に拡大いたしました。

また、将来の収益力の向上を目指して、来春夏物に向け、より付加価値の高い高価格帯の新ブランドを投入、新旧ブランドの再編を急ピッチで推進しました。

売上高は、前年同期比 3.6%減の 34 億 80 百万円となりました。インショップ業態が苦戦、GMS（総合スーパー）向け卸販売が大きく減少しましたが、ネット通販が堅調に推移、専門量販店との取引も順調に拡大し、また中国における販売が純増となる結果となりました。

売上総利益につきましては、売上の減少に伴い前年同期比 1.0%減の 16 億 55 百万円となりました。利益率につきましては、円安による悪化要因がありましたが、他方で、前年同期において売上原価に計上した廃止ブランドを中心とする棚卸資産の評価損が、当期においては大幅に減少したことにより、結果として前年同期に対し 1.3 ポイント増の 47.6%となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、諸経費の合理化、削減に取り組む一方、広告宣伝や販売促進強化を図ったことにより前年同期比 0.9%増の 15 億 98 百万円となりました。売上高販管費比率は、売上減に伴う固定費比率が高まったことにより、前年同期から 2.0 ポイント増の 45.9%となりました。

以上の結果、営業利益は 56 百万円（前年同期比 35.6%減）、経常利益は 45 百万円（前年同期比 28.7%減）、四半期純利益は 40 百万円（前年同期比 31.3%減）となりました。

リテール事業

ショップ業態における既存店ベースの売上高は、集客の伸び悩みに加え秋口の高気温の影響もあり、前年同期比 5.3%減と厳しい推移となりました。出退店につきましては、インショップ 18 店舗の出店と 2 店舗の閉店を実施し、当四半期末の店舗数は 173 店舗となりました。以上の結果、ショップ業態の全店ベースの売上高は、前年同期比 0.1%減の 20 億 55 百万円となりました。

ネット通販の売上高は前年同期比 11.0%増の 3 億 19 百万円となりました。取扱いブランド数、品揃えの拡充を図った結果、アクセス客数が大幅増となり購買客数の増加に繋がりました。

その他、催事販売の売上高は、効率性、採算性を重視し縮小を図ったことにより、前年同期比 70.1%減の 11 百万円となりました。

以上の結果、リテール事業全体の売上高は前年同期比 0.1%増の 23 億 86 百万円となり、セグメント利益は前年同期比 9.7%減の 2 億 45 百万円となりました。

#### ホールセール事業

ホールセール事業では、専門店向け新ブランドの開発、重点取り組み先でのシェア拡大、専門量販店におけるオリジナル商品の強化に努めてまいりました。専門量販店との取引は順調に拡大しましたが、GMS（総合スーパー）との取引が大幅減となりました。

以上の結果、ホールセール事業全体の売上高は前年同期比 16.9%減の 9 億 98 百万円となり、円安に伴う売上総利益率の低下と、将来の成長に向けた人員増や広告宣伝強化による固定費比率の増加により、セグメント利益は前年同期比 59.0%減の 49 百万円となりました。

#### 海外事業

海外事業では、日本からの輸出販売の増加に加え、昨年 10 月に設立した上海可夢楽且における中国現地内販が純増となり、売上高は 95 百万円、セグメント損失は 2 百万円となりました。

以上のとおり、当第 3 四半期は経営環境が大きく変化する中、業績は厳しい推移となりましたが、各事業の成長に向けた取り組みを着実に推進してまいりました。

#### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

	前連結会計年度末	当第 3 四半期 連結会計期間末	増減
総資産 (百万円)	2,466	2,323	△142
純資産 (百万円)	1,108	1,166	57
自己資本比率 (%)	44.9	50.2	—
1 株当たり純資産 (円)	1.40	1.48	—
借入金残高 (百万円)	648	622	△26

総資産は前連結会計年度末と比較して 1 億 42 百万円減少し、23 億 23 百万円となりました。主な減少は、現金及び預金 3 億 93 百万円、受取手形及び売掛金 43 百万円です。主な増加は、商品及び製品 2 億 48 百万円であり、これは季節要因による秋冬物在庫の増加と中国子会社における在庫 48 百万円の純増によるものです。

負債は前連結会計年度末と比較して 2 億円減少し、11 億 57 百万円となりました。主な減少は支払手形及び買掛金 1 億 21 百万円、経費等の未払金 79 百万円、借入金 26 百万円であります。

純資産は前連結会計年度末と比較して 57 百万円増加し、11 億 66 百万円となりました。これは主として四半期純利益及びその他の包括利益によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の 44.9%から 50.2%となりました。

#### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期業績予想につきましては、平成 25 年 11 月 7 日公表の業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(重要なヘッジ会計の方法)

当社は、当第1四半期連結会計期間より、為替相場変動リスクをヘッジすることを目的とした為替予約取引を行っており、ヘッジ会計を適用しております。

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

ハ ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する内部規程に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。また、リスクヘッジを目的としないデリバティブ取引は行わない方針であります。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約とヘッジ対象の外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引に関する重要な条件が同一であるため、有効性の評価を省略しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	771	377
受取手形及び売掛金	757	714
商品及び製品	712	961
仕掛品	7	13
原材料及び貯蔵品	31	27
その他	45	85
貸倒引当金	△9	△8
流動資産合計	2,316	2,171
固定資産		
有形固定資産	62	56
無形固定資産	23	19
投資その他の資産		
破産更生債権等	225	216
その他	56	71
貸倒引当金	△217	△211
投資その他の資産合計	65	75
固定資産合計	150	152
資産合計	2,466	2,323
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	399	278
短期借入金	134	204
1年内返済予定の長期借入金	140	121
未払法人税等	7	6
ポイント引当金	5	5
その他	289	237
流動負債合計	977	853
固定負債		
長期借入金	373	296
資産除去債務	3	4
その他	3	2
固定負債合計	380	303
負債合計	1,358	1,157
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	903	903
資本剰余金	221	221
利益剰余金	△13	27
自己株式	△4	△4
株主資本合計	1,107	1,147
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	—	12
為替換算調整勘定	1	5
純資産合計	1,108	1,166
負債純資産合計	2,466	2,323

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	3,612	3,480
売上原価	1,943	1,824
売上総利益	1,668	1,655
返品調整引当金戻入額	8	—
返品調整引当金繰入額	4	—
差引売上総利益	1,672	1,655
販売費及び一般管理費	1,584	1,598
営業利益	88	56
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	—	0
為替差益	—	0
その他	3	1
営業外収益合計	3	2
営業外費用		
支払利息	7	8
支払保守料	10	1
その他	9	3
営業外費用合計	27	13
経常利益	63	45
税金等調整前四半期純利益	63	45
法人税、住民税及び事業税	4	4
法人税等合計	4	4
少数株主損益調整前四半期純利益	59	40
四半期純利益	59	40



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	59	40
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	—	12
為替換算調整勘定	—	4
その他の包括利益合計	—	16
四半期包括利益	59	57
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	59	57
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	リテール 事業	ホールセー ル事業	海外 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,384	1,201	25	3,612	—	3,612
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,384	1,201	25	3,612	—	3,612
セグメント利益又は損失 (△)	272	120	△5	386	△298	88

(注) 1 セグメント利益の調整額△2億98百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	リテール 事業	ホールセー ル事業	海外 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,386	998	95	3,480	—	3,480
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,386	998	95	3,480	—	3,480
セグメント利益又は損失 (△)	245	49	△2	292	△235	56

(注) 1 セグメント利益の調整額△2億35百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、平成24年10月に中国における子供服の卸販売を目的とする子会社を設立し、平成24年11月より販売を開始いたしました。これに伴い、前連結会計年度より、従来「ホールセール事業」に含まれていた「海外事業」について重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第3四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。